平成19年12月28日

平成19年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

平成19年度に実施した「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，保護者や地域の皆様に御理解と御協力をいただきながら，学習指導の工夫・改善に生かしていくため，以下の通り公表します。

なお，本市の「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」に本調査を加えた，結果の分析及び指導の工夫・改善のための具体策を平成20年4月を目途に公表します。

Ⅰ　調査の概要

１　目的

ア　全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより，教育及び教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。

イ　各教育委員会，学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し，その改善を図り，併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

２　調査期日

平成19年4月24日（火）

３　調査対象

第3学年

４　調査内容

（１）　教科に関する調査
- ①　国語Ａ，数学Ａ　（主として「知識」に関する問題）
- ②　国語Ｂ，数学Ｂ　（主として「活用」に関する問題）

（２）　生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
- ①　生徒に対する調査
- ②　学校に対する調査

５　本校の参加状況

生徒数
- ①　国語Ａ　80　人，　国語Ｂ　81　人
- ②　数学Ａ　80　人，　数学Ｂ　80　人

６　留意事項

（１）本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学の2教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

（２）本校の傾向等を分かりやすく示し，指導の工夫・改善に生かすために分類・区分別の平均正答率を公表した。

（３）平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「全体的な傾向」，「分類・区分別の傾向と課題」，「指導の工夫・改善の方向性」などの分析を併せて記載した。

※用語の説明　○平均正答率…平均正答数を百分率で表示。
- ・学習指導要領の領域，評価の観点，問題形式，設問ごとの平均正答率は，それぞれの正答生徒数を全体の生徒数で割った値の百分率。
- ・平均正答数は，生徒の正答数の平均。

Ⅱ　調査結果の概要

【国　語】

≪全体的な傾向≫

　知識面においては、「書くこと」以外の全項目の平均回答率が全国平均よりも下回っている。生徒は身につけておくべき学習内容の理解がやや不足していると考えられる。また実生活に活用する力・課題解決する力においては問題形式の「短答式」以外が全国平均より、宇都宮市の平均でも問題形式の「短答式」と「話す・聞く」以外の項目で上回っている。これは活用する力が確実に育ってきているためと考えられる。

≪分類・区分別集計結果≫

（1）国語A（設問数37問）

分　　類	区　　分	対象設問数（問）	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	8	89.7	91.3	90.1
	書くこと	4	77.5	77.4	73.4
	読むこと	7	77.9	81.9	80.6
	言語事項	18	80.1	82.3	80.3
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	83.3	84.2	83.5
	話す・聞く能力	8	89.7	91.3	90.1
	書く能力	4	77.5	77.4	73.4
	読む能力	7	77.9	81.9	80.6
	言語についての知識・理解・技能	18	80.1	82.3	80.3
問題形式	選択式	20	83.4	85.3	84.2
	短答式	16	79.5	82.2	79.3
	記述式	1	72.5	73.0	72.4

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は，実際の設問数とは一致しない場合がある。

（2）国語B（設問数10問）

分　　類	区　　分	対象設問数（問）	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	1	81.5	82.8	81.3
	書くこと	3	67.5	65.8	64.4
	読むこと	9	73.1	72.8	70.6
	言語事項	1	74.1	70.8	68.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	67.5	65.8	64.4
	話す・聞く能力	1	81.5	82.8	81.3
	書く能力	3	67.5	65.8	64.4
	読む能力	9	73.1	72.8	70.6
	言語についての知識・理解・技能	1	74.1	70.8	68.5
問題形式	選択式	5	82.2	80.9	79.3
	短答式	2	63.0	68.2	63.5
	記述式	3	67.5	65.8	64.4

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は，実際の設問数とは一致しない場合がある。

≪分類･区分別の傾向と課題≫

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】
〇平均回答率が知識面で全国平均よりもやや下回っているものの活用面では若干上回っている。話すことの内容に応じ適切な資料を提示することで、多くの生徒が理解している。
【書くこと】
〇平均回答率が知識面・活用面で全国平均よりも上回っている。手紙の後付けについてほとんどの生徒が理解している。行事のあとに作文を書く習慣がよい結果になっている。
【読むこと】
●平均回答率が知識面・活用面で全国平均よりも下回っている。文脈における描写を的確に読み取ることや、作品の内容や構成を踏まえ、自分の考えを書くことに課題がある。
【言語事項】
●平均回答率が知識面・活用面で全国平均よりも下回っている。文脈に即して漢字を正しく読んだり、副詞をはじめとした品詞の理解に課題がある。
【その他】
〇文章全体の内容や表現の特徴についておおまかに読み取ることや作品の展開や心情の変化に着目して朗読したりすることは相当数の生徒ができている。
●複数の資料から得た情報を整理して伝えたい事柄や自分の考えを明確にして書くことや文章の展開や心情の変化に着目して工夫しながら朗読することに課題がある。

≪国語に関する質問紙調査の状況≫

【生徒質問紙】

「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出
たときに役に立つと思いますか」はそれぞれ５８．８%、４７．５%いるのに対して、「国語の授業はよく分かりますか」「国語の勉強は好きですか」はそれぞれ１６．８%、１８．８%しかいない。
また、「国語の授業では、友達と話し合ったり意見を交換したりする場面が多い」「国語の授業では。自分の思いや考えを書くことが多い」はそれぞれ7.５%、２５．０%となっている。さらに「読書は好きですか」は５３．８%いるのに対して、「『蜘蛛の糸』を今までに読んだり聞いたりしたことがありますか」は３３。８%となっている。

≪国語における指導の工夫･改善の方向性≫

【話すこと・聞くこと】
聞き手を意識して使用する語句を工夫することに課題があることを踏まえ、話し合い活動時に聞き手の立場を意識させたり語彙力を豊かにさせることを意識した授
【書くこと】
手紙の頭語についての知識・理解に課題があることを踏まえ、手紙を書く機会を作り、その中で手紙の書き方の指導を行う。
【読むこと】
文脈における描写を的確に読み取ることに課題があることを踏まえ、描写の部分を確認しながら、段落や文章の中身を理解させる指導を行う。
【言語事項】
漢字の読み書きの力をつけさせると共に語義や語源などにも着目させて、言葉の根本を理解させる指導を行う。また、家庭学習でも漢字練習を習慣化できるように意
【その他】
手紙の後付の知識と目的や場面に沿った効果的な話し方を理解させる。

【数　学】

≪全体的な傾向≫

・数学Ａの平均正答率は全国平均とほぼ同じである。正答数の頂点は30問と36問にありこれは全国平均より高い。33問35問の分布の割合は全国より低い。
・数学Ｂの平均正答率は全国平均より低く、正答数の分布状況は8問～9問の割合がいずれも全国より高い。

≪分類･区分別集計結果≫

（１）数学A（設問数36問）

分　　類	区　　分	対象設問数（問）	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	12	72.5	73.9	74.4
	図形	12	78.6	77.2	75.5
	数量関係	12	63.0	66.4	65.9
評価の観点	数学への関心･意欲･態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な表現･処理	14	66.8	69.6	70.6
	数量･図形などについての知識･理解	22	74.3	74.3	72.8
問題形式	選択式	18	71.5	72.3	70.9
	短答式	18	71.3	72.7	73.0
	記述式	0			

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は，実際の設問数とは一致しない場合がある。

（２）数学B（設問数17問）

分　　類	区　　分	対象設問数（問）	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	数と式	5	45.0	47.9	48.2
	図形	2	40.6	50.6	53.1
	数量関係	10	64.8	67.7	67.9
評価の観点	数学への関心･意欲･態度	0			
	数学的な見方や考え方	13	50.1	55.7	56.5
	数学的な表現･処理	3	68.3	67.5	66.5
	数量･図形などについての知識･理解	1	97.5	92.0	93.0
問題形式	選択式	3	70.0	65.2	63.9
	短答式	7	71.6	73.4	74.2
	記述式	7	34.6	44.2	45.1

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は，実際の設問数とは一致しない場合がある。

≪分類･区分別の傾向と課題≫

●…課題があるもの

【数と式】

●Ａ　領域の平均正答率は72.5％で全国平均より1.9ポイント低い。特に式の値を求める問題で78.8％で全国平均より4.3ポイント低く、無回答率も全国平均より2.7ポイント高い。

○Ａ　移項の意味を選ぶ問題では66.3％で全国平均より5.5ポイント高い。

●Ｂ　領域の平均正答率は45.0％で全国平均より3.2ポイント低い。特に記述式の問題に関して課題がある。

【図形】

○Ａ　領域の平均正答率は78.6％で全国平均より3.1ポイント高い。特に空間での直線の位置関係についての正答率は87.5％で全国平均より17.4ポイントも高い。

●Ｂ　領域の平均正答率は40.6％で全国平均より12.5ポイント低い。Ａ問題と比較すると問題形式が短答、記述式になるだけで極端に正答率が下がることに課題がある。

【数量関係】

●ＡＢ領域平均正答率はＡ、Ｂともに全国平均より2.9、3.1ポイント低い。特に1次関数のグラフの読み取りに課題がある。

○Ａ　反比例の関係は表、グラフともに全国平均より6.3、9.6ポイント高い。

≪数学に関する質問紙調査の状況≫

【生徒質問紙】

○　「数学の勉強は大切だと思うか」に対する肯定的な意見は87.5％で全国平均より8.7ポイント高い。

○　「数学の授業の内容はよく分かるか」に対する肯定的な意見は78.0％で全国平均より14.4ポイント高い。

○　「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」に対する肯定的な意見は86.2％で全国平均より17ポイント高い。

●　「数学の勉強が好きか」に対する肯定的な意見は41.3％で全国平均より9.7ポイント低い。

●　「数学の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考えるか」に対する肯定的な意見は57.5％で全国平均より5.5ポイント低い。

≪数学における指導の工夫･改善の方向性≫

【数と式】

・文字式の意味を身近な事象と関連づけながら数量関係をとらえさせる機会を充実させ、数から文字への移行を確実に定着させる。

【図形】

・不十分な証明や誤った証明を修正する活動を取り入れるなどして見通しを持って証明を構成する活動を充実させる。

【数量関係】

・1次関数で日常的な場面との関連を図り、事象とグラフとの関係や、グラフの意味を読み取る学習などを取り入れ、数学的に処理したり解釈する力をつけさせるための機会を多くとり問題解決ができるような活動をさせる。

【その他】

・計算の反復練習などを繰り返し行い基礎・基本の定着を図る。

・記述問題に対しても粘り強く取り組めるような働きかけや、粘り強く取り組めるような問題に取り組める機会を積極的に増やす。

【質問紙調査】
生徒質問紙
≪主な状況≫

○「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、92.5％で全国と比べて、3.6ポイント高い。
○「携帯電話で通話やメールをしていますか」の質問に対する否定的な回答の割合は、85.1％で全国と比べて、30.1ポイント高い。
○「家の人と普段夕食を一緒に食べていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、91.3％で全国と比べて、11.0ポイント高い。
○「読書は好きですか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、80.1％で全国と比べて、10.2ポイント高い。
●「朝食を毎日食べていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、86.3％で全国と比べて、6.4ポイント低い。
●「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、12.6％で全国と比べて、9.1ポイント低い。
●「家の人と普段、朝食を一緒に食べていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、33.8％で全国と比べて11.0ポイント低い。

Ⅲ　今後の予定

市が作成した『学習指導の工夫・改善のために』（指導資料）を参考に「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」の結果と「全国学力・学習状況調査」の結果を併せて，「本校における学習指導の工夫・改善」を作成する。

・ 公表時期　平成20年4月（予定）
・ 公表方法　ホームページ等